

本を選ぶ

NO.466 2024年(令和6年)3月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>クレソン 続々

●選書の法則：S.R. ランガナタンからの187のメッセージ(26)



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

クレソン 続々

人間と動物の違いと言えば、動物は調理をしない、と言ったのはアメリカの哲学者サラ・ウォースだが(『食の哲学』永瀬聡子訳/バジリコ/2022年)、なるほど食材・料理・献立(メニュー)、酒類、食器やお膳、食事の部屋など挙げればいくらかでも要素は出てくる。自ら穀物・野菜類や果物など、そして漁労から狩猟などをこなし食材を育てたり調達する。ポンペイの遺跡よりも遙か以前から、人間が火を使い始めて以来の話なのだ。(だからと言って動物が人間より劣るなどとは思ってはいけない。彼らにも人間がなしえない能力が備わる)

現代では毎日の生活はシンプルではなくなった。都会暮らしだと食材はもっぱらスーパーでという毎日だし、せいぜい郊外に出掛けた折に道の駅をのぞくくらい。だから、ほぼ完全な有機栽培農家からお任せで野菜を定期的に送ってもらう、つまりサブスクを試してみたが、到来する野菜たちは確かに濃い味ではあった。だがしばらく続くと自分たちの生活リズムとは微妙にずれてくる。悩ましい問題だった。あげく、去年やめてしまった。

もっと以前に時折取り寄せていた卵は最近復活してきた平飼いではなくケージ飼育の鶏卵で、美味しい卵を産生するべく飼料を工夫しているのだ

そうだ。この生産者の謳い文句によれば、パリ7区の三ツ星レストラン、アルページュのシェフ、アラン・パッサールがその品質を認めたという。

その経緯は存じないが、ともあれアラン・パッサールは、有名シェフ、アラン・サンドランスの元で修行し、かつては肉料理に定まった評価がある人らしい。しかし最近では野菜料理をメインに据えて専門に出すという世界観に到達する。野菜は当然ながら自家菜園で栽培しているという。子ども向けに料理絵本も出版した。(『庭の小さなかまたちの季節の野菜レシピ』アラン・パッサール 文/アントーン・クラン 絵/内坂芳美 訳/幻冬舎/2007年)

レストランの地下にはサロン・ルサーージュという特別の設えがあり、オートクチュール刺繍を手がけるメゾン・ルサーージュが最高峰の内装を手がけて話題になった。とびきりの野菜を使って一流のアイデアと調理技術で展開されるコース料理を豪華な刺繍の内装に囲まれて食す、なんておおよそ考えられない。主菜は赤カブや根セロリなどの料理、そしてお値段も超一流!(食べたことないけど!!)

サブスクの野菜たちとともに平飼い卵も入ってもらっていた。年初には地方にIターンして卵生産者に転身した友人夫婦が恵送してくれた卵が届いた。いずれの卵も黄身は淡い色あい。説明によれば餌によって色が変わるらしく、いずれも米ぬかをつつついているようだ。濃い味というよりは、子どもの頃もみがらのベットに半分理まった卵たちの懐かしい味に原点回帰、の趣か。(埜村 太郎)

選書の法則：

S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (26)

吉植 庄栄

『図書館選書論第2版』の内容を、ランガナタンがよく使った架空の対談方式で紹介している。今回は第五法則の最終回、というか五法則全体の最終回、大団円で有終の美。と見せかけてまだ『図書館選書法』第2版の内容紹介は、続きます！

【登場人物】

○ランガナタン：図書館界のビッグスター、S. R. ランガナタン (1892-1972) 先生。インドのライブラリアンによると来年はランガナタン先生がライブラリアンになって100周年祭とのこと。各地で様々なイベントがインドであるようだ。筆者さんは行きたいらしい。

○第五法則くん：ランガナタンの著作『図書館学の五法則』に出てくる「図書館は成長する有機体 (A Library is a growing organism)」という5番目の法則。5つの法則の中で1、2を争う夢と希望にあふれた人気者！

○読み継がれる古典

ランガナタン (以下「ラ」)：今回は、蔵書数の増加と収容スペースの限界、その解消方法の話をした。また、媒体自体が成長・進化を遂げて、収容スペースの考え方が大きく変わるといった話をした。

第五法則くん (以下「五」)：はい、「成長する有機体」って美しい響きですが、図書館資料が増加して入らなくなると図書館員さんたちは、大変な苦勞をするんですね。人間も成長する時に色々苦しみますが、それと似ていますね。

ラ：そうだな。産みの苦しみだ。人間、大きく成長する時には大きな痛みが伴うよな。さて今回は、最初に古典の話だ。

五：前回の予告の際、あまりピンときませんでした。詳しくお願いします。

○次世代へ資料をつなぐのが図書館の役目

ラ：図書館の利用者は、時間とともに次の世代に入れ替わって行く。人は死に人は産まれる。終わることの無い時間の流れを、図書館は続いて行く。そして絶え間なく資料を次の世代へ次の世代へと繋いでいく。

五：はあ、なんか松本零士先生みたいでカッコいいですね！確かに時間が経てば利用者さんも変わります。そして本も物理的には、摩耗して壊れて行きます。形あるものの宿命ですよな。

ラ：そうだ。しかし、資料の内容は不滅である。偉

大な古典は、時代を超えて継承されていく。いわば我々人類にとって不滅の価値を持つのだ。いや、言い換えると人類にとって普遍的な内容の古典が、時代と言語の壁を超えて受け継がれてきたと言える。

五：なるほど。古代の経典なんて内容が古そうですが、現代人にも通じる何かがあるからこそ、今でも広く読まれているのですね。

ラ：そうだ。例えば私が何度も何度も読んだ『ラーマーヤナ』(インドの古典)だ。図書館員に転職するかどうか悩んでいる時に、出身中学校の校長に相談に行ったら読むことを奨められた。その後何度も読んだが、実に含蓄深い。

五：筆者さんは中国古典に子どものころから触れていたもので、例えば孔子の言行録である『論語』の衛靈公編にある「子曰く、己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」なんかが良い例と挙げてます。

ラ：まさにそのとおり！つまり「自分がやられて嫌なことは、人にするな」ということだろ？ これは、古代人だろうが現代人だろうが同じだ。このような時代を超えて通じる話がある古典は、不滅なのだ。

五：変わらない人間本質に関わる話は、受け継がれやすいですね。どんなに人類社会や技術が成長しても、人間の最奥には変わらないものがあるのですよね。

ラ：そうだ。さて次の話だが、物理的に本が古くなると壊れるだけが古典の問題ではない。

五：他には何が？

ラ：つまり、版が古いと全く魅力が無い。筆者さんに合わせて中国の『論語』で考えよう。

五：はい。もしかして文体とか印刷の体裁とか？

ラ：そうだそうだ。『論語』は、歴代、様々な形態や版で読み継がれてきた。しかし古い版を敢えて読もうとする人は少なからう。例として20世紀前半に刊行された『論語』が、図書館にあったとする。それを利用者は手に取るだろうか？

五：なるほど！つまり壊れやすくなるだけではなく、体裁も中身も古臭いということですね！？

ラ：その通り。日本で20世紀前半なら、いわゆる文語体で書かれていることも多い。下手をすると仮名もカタカナで書いてあって、現代人にはとても読みにくい。また解説も約100年前の常識で書いている。

五：それでは、読み下すのが大変ですよ。

ラ：だから、現代の利用者さんが読みやすい最新の版を選書しておかないといけないのだ。またこの100年間の学問の進歩も反映されている現代語訳や解説が併記されていることも大事なファクターだ。それゆえ古典の精神を受け継ぐには、しばしば刊行される新版の受入が必要なのだ。

五：はい、よく分かりました。古典を1冊選書しても、それだけでは十分ではないのですね。常に新版が出ていないか確認し、刊行されたら受け入れないといけないのです。

ラ：そうだ。また、古典と言っても色々ある。例えば宗教経典、哲学書、詩や戯曲、小説といったよく読まれる文学作品だな。常にこれらの新しい版を選書して行くのが理想である。

五：話を聴いている内に、海外の古典の翻訳も時代ごとに更新していく必要があるのではないかと思います。

ラ：そうだ。古い訳本だと、これがまた分かりづらかったりする。ゆえに可能な限り、新しい翻訳本を準備すべきである。

五：翻訳が、より分かりやすくなっていることが多いですよ。

ラ：そうだ。そして、学問の進歩が反映されていると思うぞ。

○時代があとから追いつく作品

ラ：次に話したいのは、その時代には早すぎた本についてだ。

五：それって何ですか？この話も詳しく聞きたいです。

ラ：うむ。つまり、刊行された時には難し過ぎて理解されず、時間が経ってから評価が上がるというものだ。

五：あー、なるほど。よく「時代がやっと追いついた」という表現がありますが、このことですよ。

ラ：そうだ。出版時には新し過ぎて、皆が理解でき

ない内容だとする。しかしその後時代が下り、社会や技術が進歩した結果、あの作品の言っていたことは、その通りだった、すごいや！となるものだ。

五：なるほど。それと選書の関係は？

ラ：あ、分かりにくいよな。丁寧に説明すると、内容が難解であったり理解不能であったりしても選書したまえ、ということだ。

五：(うわー、選書会議荒れそう。)

ラ：引いている感じがするので、更に丁寧に説明しよう。

五：はい、よろしく、お願いします。

ラ：僕の郷里の先輩である、ラマヌジャン (Srinivasa Ramanujan, 1887-1920) ばいせんという偉大な数学者がかつて居た。ばいせんは、数学馬鹿で他の科目が全く駄目だった。そのため大学は中退して、港湾事務所の事務員なんかやっていた。しかし、イギリスの大学の数学の先生に手紙を書き続けた結果、1人の先生がその天才さに気づいてイギリスに招聘したという超大物だ。

五：数学に強いインドというイメージを、代表するような先輩ですね。

ラ：そうだ、私はその頃学生で、今でもばいせんがイギリスに招聘されたニュースを聞いた時の衝撃を覚えている。とんでもないことだったんだよ！ 田舎のただの木っ端役人が、急に宗主国の学会から脚光浴びて招聘されるって。そんな話、まぢか……？って夜も眠れないくらい驚いたし、真面目に自分の今後の身の振り方を考えるような機会だった。

五：で、その話と選書とはどのような関係なんですか？

ラ：そうだそうだ、この話になるといつも興奮してしまっただよ。すまなかった。で、1928年に彼の著作全集が刊行されたのだ。

五：はい、それで？

ラ：(小声) 何書いてあるかさっぱりだった……。超難解(涙)。

五：えー！ それでは、図書館の選書的には難しそうですね。そんな本選んだら、第一法則、第二法則、第三法則兄さんたちの総スカンを食いそうです。

ラ：その通りだ。難しくて、第一法則くん「まず利

用されないから却下」、第二法則くん「すべての利用者が求めないから却下。」、第三法則くん「利用者に見つけてもらえないから却下。」となる。君ら『図書館学の五法則』的には、全く受けが悪い。

五：はい。ですよ。兄貴たちからは、このようにNoが突きつけられるでしょう。

ラ：そこでだ、このような本を選書するには、君の力以外にはないのだ。つまり今は難解過ぎても図書館、いや時代や社会、技術が成長した結果、時代がこの作品に追いつく日が必ずある、という観点で選ぶのだ。その結果「この作品を刊行当時から所蔵していたのは、当時の図書館員さん、とても先見の明があったんだなあ。」となるのだ。

五：なるほど。その時には難しくても「将来これはきっと必要になるぞ!? 選書しておこう。」と考えることが必要なんですね。

ラ：そうだ。ただ、「難しい」けど「よく分からないが入れておくか!?’’ではないのだ。選書担当者も時代の変化、人類の発展に関心を持ち、この本は現時点で難解でも、きっとこれからムーブメントを起すだろう!と予見して選書して欲しいな。

五：そうなる就先例踏襲のみならず、その選書担当者さんには世界観とか人類の今後の予見なんかも持って欲しいところですよ。

ラ：その通り! 実際、このばいせんの著作は今や数学の重要な資料になっている。時代がばいせんに追いついたのだ。

五：他にもこのような事例はありますか?

ラ：例を挙げると切りが無いが、思いつく限り挙げると、遺伝学のメンデル、心理学のウィリアム・ブレイク、哲学のケルケゴールだな。経済学では、カール・マルクスの著作も挙げられる。

五：全て刊行当初は、難解な作品だったのですか?

ラ：そうらしい。今でこそ、古典の名著として人類の宝になっているが、当時としては斬新すぎて、見向きもされなかった。

五：時代によって常識が違うので、当時は受け入れられなかったのですよね。その常識が変わる、或いはその作品が変わると時代が進むということなんですかね?

ラ：まさにそういうことだ。これまで刊行当初は理

解不能な作品の例を挙げてきた。もっと上級になると、「人々が全く分からなくて、触れえない内容」ということで、難解どころか皆がぼかん・・・という作品もある。

五：例えばどんな作品ですか?

ラ：意外だろうがシェイクスピアの作品だ。シェイクスピアの作品は、今では考えられないが、図書館の蔵書として拒否されていたらしい。今では古典の名著となっているが、内容が「触れえないもの」というのが原因だったらしい。

五：へー、そうなんですね!? 歴史を振り返ると意外なことばかりですね。「成長」の結果、これまで「難解」だったり「触れえない作品」だったものが転じて、名作となり人々が読むべき基本書になっていくのですね。

〇さあ、いよいよ大団円

ラ：という訳で、選書は急いで結論を出すべきではない。そして、軽く判断してはいけないし、選択肢から除外してはいけないんだ。将来のことも念頭に置くと、その資料の「価値」を深く考える必要がある。その時の判断基準は、この後人類社会はどうなっていくのだろうか?という将来予想だな。そこに人類に対する深い哲学があると判断しやすいぞ。

五：なるほど、その哲学はこんな感じでしょうか? 筆者さんが推していた「自分が嫌なことは人にすべきではない。」なんかは、数千年経とうが変わらない・・・という精神ですかね。日々変化する人類が、根底に変わらないものがある、という確信があれば、選書にも活かそうです。

ラ：その通りだ、例えば人は必ず死ぬ・・・時間は人それぞれ限られている・・・ということをドイツの哲学者のハイデガーは主張し、そこから哲学を進めた。これは今の所、現代人にも通じる普遍的な原理だ。このようなことを背景に選書をして欲しいものだな。

五：はい、今回もありがとうございます!! さて、そろそろ終わりです。今回は・・・おっと、そういえば最終回でした。

ラ：おおお、ついに最終回か! 平成28(2016)

年から第一法則くんとはじめた各法則と選書の解説も、8年かけて大団円か（注：連載は平成27(2015)2月No.357から）。感慨深いな。

五：そうですね、継続は力なりって言うのは本当です！いやあ、本当にお疲れ様でした。筆者さんの今の教え子の大学1年生が、小学生低学年のころからこの連載書いているんですね。

ラ：長い道のりだった。まさに愚公移山（愚直に頑張って気づくと大きな仕事を終えたこと。）だな。

五：はい、この場に立ち会えて感無量です！

ラ：うむ、で・・・だな。

五：はい、何か？

ラ：実は、まだ・・・続くんだよ。

五：は？

ラ：だから、まだこの連載続くの！

五：え？私で終わりでないの？

ラ：そう、大体なあ、お前ら五法則の主張全部かなえると矛盾するんだよ（怒）！

五：えー！そんない！

ラ：そんな訳でな、次回は五法則全員集合だ！矛盾点を徹底議論だ！題して「五法則の内戦」！！

五：えー、大丈夫かな？ とはいえ、私の回を3回やったんで次回は多分筆者さんのターンです。筆者さん、人生の一大決断をしたらしいんで、きつと報告があると思います！！ それではまた！

（ようしえ しょうえい：盛岡大学文学部）

DMかたろく

法律図書総目録

2024 A5判／224頁／頒価本体286円

- 75社の約2,700点を紹介。ISBNコード付。
- 法律部門並びに政治部門に大別、さらに中分類29項目、小分類（専門分野）112項目。
- 書名毎に「読者対象」を表示。
- 初心者向け入門書から研究者向けまで。
- 書名、著者名、新刊書名の索引付。
- 書店様にてご注文ください。

一般社団法人 法経書出版協会

〒101-0051 千代田区神田神保町1-35
(株)中央経済社内 TEL03-3293-3371

経済図書総目録

2024 A5判／104頁／頒価本体286円

- 50社の約1,100点を紹介。ISBNコード付。
- 経済史、統計学、経済理論、財政学、金融、社会政策、ほか19分類73項目に分類。
- 書名毎に「読者対象」を表示。
- 書名、著者名、新刊書名の索引付。
- 書店様にてご注文ください。

一般社団法人 法経書出版協会

〒101-0051 千代田区神田神保町1-35
(株)中央経済社内 TEL03-3293-3371

経営図書総目録

2024 A5判／264頁／頒価本体286円

- 70社の約3,200点を紹介。ISBNコード付。
- 経営、会計、商業の3部門に大別。28分類105項目に分類。
- 書名毎に「読者対象」を表示。
- 初心者向け入門書から研究者向けまで。
- 書名、著者名、新刊書名の索引付。
- 書店様にてご注文ください。

一般社団法人 法経書出版協会

〒101-0051 千代田区神田神保町1-35
(株)中央経済社内 TEL03-3293-3371

生活・健康・栄養図書総目録

最新版 2024 A5判／199頁／頒価本体286円＋税

- ◆2023年11月現在刊行されているものと、近刊予定のもの合わせて100社の約2,400点を紹介。
- ◆分類は、健康・栄養系の総記、栄養、疾病と食事療法、栄養に関する基礎医学、保健・衛生、健康、食品、調理、料理、生活系の総記、生活・家政学一般、家族の生活、保育・幼児教育、福祉、生活環境、衣生活、住生活、家庭科教育、両方の系統にまたがるもの、関連雑誌の20項目に改訂し、さらに各専門項目に細分化して、適書選択の便を図っております。
- ◆各書目ISBNコードを表示しました。
- ◆著者・書名索引並びに目録掲載出版社名簿を掲載。

家政学図書目録刊行会

話を する方法

哲学者が教える
不可能を可能にする
対話術

相手と

【監訳】藤井翔太 【訳】遠藤進平
ピーター・ボゴジアン＋ジエームズ・リンゼイ
2640円

話が通じない

たちまち**3刷**

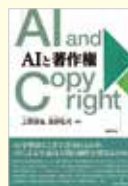
入門級の基礎知識から、強硬派に対処するための達人級テクニックまでを網羅した実践マニュアル。

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
TEL 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

上野達弘・奥邨弘司 編著

AIと著作権

著作権法に徹底する基本思想から、重要論点を徹底考察。 3300円



鈴木貴之

人工知能の哲学入門

人工知能の可能性と限界をめぐる哲学的議論をアップデート！ 2970円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 ※価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

疑う、知る、考える 哲学をはじめ

青柳雅文 著

哲学は「どこまでも問い続けること」です。いますぐ哲学をはじめましょう。本当だろうか、なぜだろうかと問い続けましょう。トビラを開けて。目の前にあるケーキは「本当にケーキ？」と。



四六判美装カバー242頁 2750円

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

本人・家族のための 精神医学ハンドブック

4月上旬刊

こころの病気のやさしい教科書

大森哲郎【著】 ●定価1980円(税込)
ISBN 978-4-535-98533-3

各疾患のわかりやすい解説に加えた本人のための「療養の心得」と、家族に向けた「家族と周りの人にできること」も充実の内容。



データ駆動型 回帰分析

末石直也【著】

分析者の恣意性を極力排除したデータ駆動型の回帰分析の可能性について考える。

計量経済学と機械学習の融合

●予価2640円(税込) ISBN 978-4-535-54048-4

4月中旬刊

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>

ESTRELA

■2024年3月号
No.360/3月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

【特集】公的統計におけるデジタル化の進展

■ 統計基盤のデジタル化の推進

西村 正貴(独)統計センター 情報システム部 システムソリューション課長)

■ 家計調査のデジタル化(家計調査オンライン調査システムの改善について)

伊藤 豊(総務省統計局 統計調査部 消費統計課情報化担当課長補佐)

■ 画像解析による農地の区画ごとの作付状況の把握の取り組みについて

建石 大地(農林水産省 大臣官房統計部 統計企画管理官補佐)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

賛同・許容・傍観された自民党政治

浅野良成 著

約8年にも及んだ第2次安倍政権。自民党所属議員の右傾化が進んだ一方、2012年以降の国政選挙はいずれも自民党が圧勝した。有権者はなぜ、自民党に政治を委ね続けたのか。世論調査データを用いて実証的に分析する。 A5判3,850円



入門・消費者行動論

高橋郁夫・高嶋克義 著

基本的理論やモデルを相互に関連付け、マーケティング実践へ架橋する。サービス経済化とコト消費、オンラインでの購買、サステナブルな消費など、近年の重要トピックをふんだんに取り上げ、ビジネスパーソンにも最適。 四六判2,530円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17 価格は税込
<https://www.yuhikaku.co.jp/>